

# 令和6年能登半島地震・奥能登豪雨災害からの 復旧・復興に向けた取組



国指定文化財名勝「白米千枚田」



石川県無形民俗文化財「あばれ祭り」

令和 8 年 2 月  
石川県奥能登農林総合事務所

# 能登半島地震・奥能登豪雨の概要



## 能登半島地震

(1) 発生日時  
令和6年1月1日16時10分頃

(2) 震源地  
石川県能登地方（震源の深さ 約16km）

(3) 地震の規模  
マグニチュード7.6（最大）

(4) 県内の震度  
・震度7：志賀町、輪島市  
・震度6強：七尾市、珠洲市、穴水町、能登町  
・震度6弱：中能登町  
・震度5強：金沢市、小松市、加賀市、羽咋市、かほく市、能美市、宝達志水町  
・震度5弱：白山市、津幡町、内灘町  
・震度4：野々市市、川北町

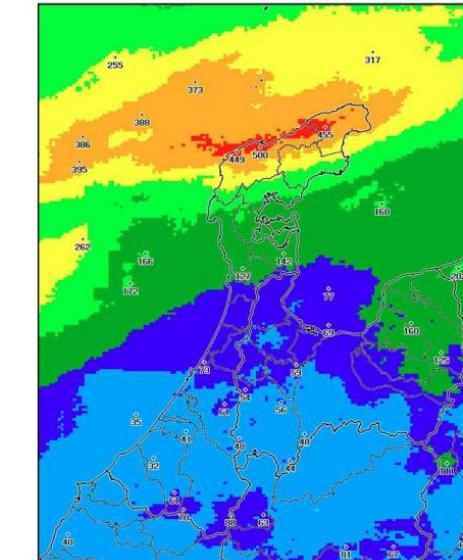
※津波：能登町や珠洲市で4m以上の津波の浸水高を観測

## 奥能登豪雨

(1) 発生日時  
令和6年9月21日から23日かけて

(2) 降雨量（輪島観測所：気象庁）  
120.5mm（最大60分雨量）  
476.5mm（累計雨量）

(3) 降雨の状況  
・北陸地方に停滞する前線や低気圧の影響により、断続的に激しい降雨  
・輪島市、珠洲市、能登町では「大雨特別警報」が発表され、輪島市では観測史上最大となる雨量を記録



【出典】金沢地方気象台「令和6年9月21日から23日の大雨に関する石川県気象速報」  
[https://www.data.jma.go.jp/kanazawa/shosai/tmp/20240921\\_sokuhou.pdf](https://www.data.jma.go.jp/kanazawa/shosai/tmp/20240921_sokuhou.pdf)

# 能登半島地震の被害状況 (県全域)



- 建物や道路の損壊、液状化現象に加え、津波・地盤隆起などの甚大な被害が発生
- 電気、ガス、水道等のライフラインや道路、鉄道等の交通インフラにも甚大な被害が生じ、住民生活や中小企業、農林水産業や観光業等の経済活動にも大きな支障が発生



輪島朝市周辺 (輪島市)



津波被害 (珠洲市)



液状化現象 (内灘町)



のと里山海道 (七尾市)

(令和7年9月末時点)

人的被害	
死者	653人
行方不明者	2人
負傷者	1,272人
小計	1,927人

住家被害

全壊	6,167棟
半壊	18,723棟
一部破損	91,510棟
その他	11棟
小計	116,411棟

# 奥能登豪雨の被害状況 (県全域)



- 地震による被災から復旧を進めている中で、豪雨による水害の発生は、我が国の災害史上初めてであり、**極めて異例な複合災害**
- 農林分野でも、奥能登では**過去に経験したことのない被害が発生**



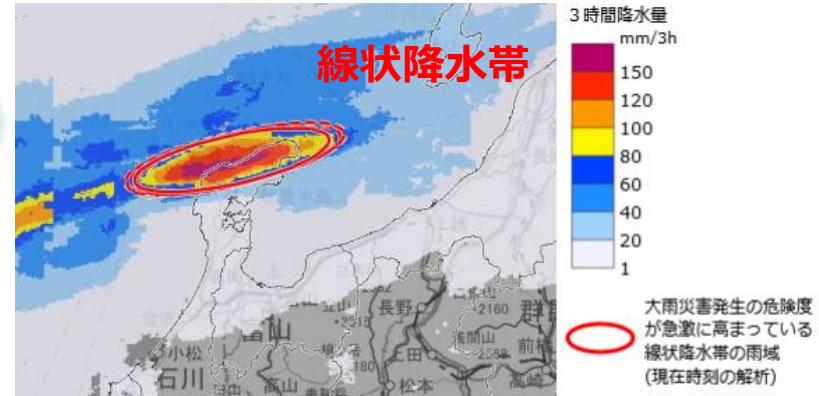
農地への土砂流入 (珠洲市)



山腹崩壊と土砂流出 (輪島市)



<3時間降水量> 09月21日10時40分



<1時間降水量>

輪島:120.5ミリ、珠洲:83.5ミリ  
**(観測史上1位)**

28河川 (県管理) が氾濫

(令和7年9月末時点)

人的被害	
死者	19人
負傷者	47人
小計	66人

住家被害	
全壊	82棟
半壊	658棟
一部破損	159棟
床上浸水	74棟
床下浸水	928棟
小計	1,901棟 3

# 農林業関係の被害額 (県全域)



- 被害額は令和6年12月末時点で**1,935億円(地震)**、**531億円(豪雨)**  
平成19年能登半島地震を上回り、石川県の記録上、**過去最大**

(令和6年12月末時点)

能登半島地震		奥能登豪雨		
	件数	被害額	件数	被害額
農業	13,326 件	1,159 億円	3,501 件	335 億円
森林	2,646 件	776 億円	582 件	196 億円
計	<b>15,972 件</b>	<b>1,935 億円</b>	<b>4,083 件</b>	<b>531 億円</b>

# 農業関係の被害状況 (県全域)



【地震】農地の亀裂や法面崩壊、農業機械・施設損壊、畜舎損壊など13,326件の被害

【豪雨】農地の土砂・流木堆積、農業機械・施設損壊など3,501件の被害を確認



【地震】白米千枚田の亀裂・法面崩壊 (輪島市)



【豪雨】流木の堆積 (珠洲市)



【地震】畜舎倒壊 (能登町)



【地震】ため池堤防崩壊 (宝達志水町)



【豪雨】水路埋塞 (輪島市)

# 森林関係の被害状況 (県全域)

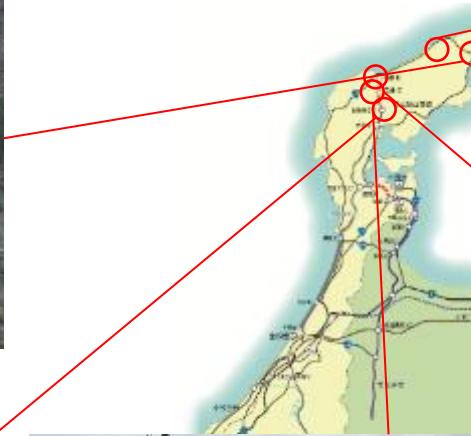


【地震】山腹崩壊など、林地340箇所、林道2,245箇所など2,646件の被害を確認

【豪雨】地震で緩んだ斜面が崩壊するなど582件の被害を確認



【地震】山腹崩壊 (珠洲市)



【豪雨】上流部からの土砂流入 (珠洲市)



【地震】林道崩壊 (輪島市)



【地震】製材工場の損壊 (輪島市)



【豪雨】山腹崩壊 (輪島市)

# 「奥能登営農復旧・復興センター」の設置



- 令和6年11月、被災農業者のワンストップ支援組織として、「奥能登営農復旧・復興センター」を設置し、復旧・復興に向けた取組を加速化
- これまで各種支援制度の申請支援や融資などの相談対応のほか、農地等の復旧見通しの提示や営農再開・継続に向けた支援を実施

## 奥能登営農復旧・復興センター (JAのと本店(穴水)内)

＜構成＞県、JA、4市町、農政局、NOSAI  
・復旧・復興センター内会議(月1回開催)

### 地域支援チーム



＜構成＞市町(チーム長)、農林(副チーム長)、JA、農政局  
・地域チームごとに協議・協働(隨時)

### R6. 1月 能登半島地震

2月 営農相談窓口の設置  
(JAのと本店、JA内浦町、珠洲農林事務所)

### 9月 奥能登豪雨

### 11月 奥能登営農復旧・復興センターの設置

### R7. 4月 市町ごとに地域支援チームの設置

#### ＜センター常駐＞

- ・県農林 5名 (うち窓口 2) ※R7.11月～ 1名増
- ・JA 4名 (全農、中央会、のと) ※R8.1月～ 1名増 (共済連)
- ・農政局 3名 (うち窓口 1) ※R8.1月～ 1名増

# 主な取組内容

相談	○機械の再取得や融資等	○支援事業・制度の内容説明、申請等支援
農地等の復旧	○応急を含めた復旧工事の加速化	○農地等の復旧見通しの提示 ・地域別説明会の開催 概略（8月、11会場、450名） 詳細（12月、28会場、450名） ○農地等の復旧の促進 ・直営施工の実施支援 ・重機を活用した復旧作業の促進
	○生産性の高い農地等への再整備	○地域農業の将来像について合意形成促進（モデル 13地域・42集落）
宮農再建支援	○担い手の確保・収益性向上 	○小・中規模農家（集落）の宮農継続・再開 ・地域農業の将来像について合意形成促進【再掲】 ・JA受託者組織の設立（10月） ・不作付け農地（人的要因）の調査・担い手とのマッチング支援 ○大規模農家の経営改善・農地集積 ・代替農地の確保、作業受委託の促進 ・経営分析（30経営体）に基づく経営改善支援 ・現地実証等を通じた技術の確立・普及（スマート農業、直播）
	○農地等保全管理体制の整備	・地域農業の将来像について合意形成促進【再掲】 ・ボランティア等の派遣
	○宮農意欲の喚起等	・知事・首長による現地意見交換会（7月、輪島市・珠洲市4会場、217名） ・復旧・復興フォーラムの開催（12月、穴水町、450人）

# 農地等の復旧見通しの提示



## ○農地の復旧計画を示してほしいとの農家からの声を踏まえ、地域別説明会を開催し、**宮農再開時期の見通しを示したマップを提示**

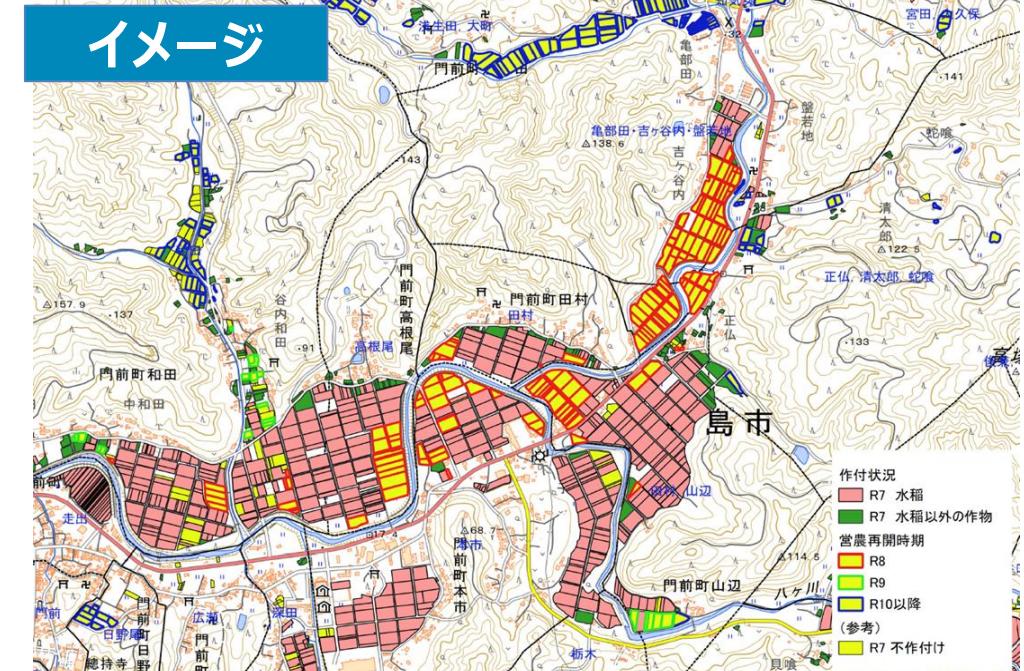
→農家と知事・首長との意見交換(7月・4会場 (輪島市 (門前、輪島、町野) 、珠洲市) 計217人

### ・8月：暫定マップ

→11会場 (輪島市 5回、珠洲市 3回、能登町 2回、穴水町 1回) 計450人

### ・12月：工事の進捗等を踏まえた**より精度の高いマップ**

→28会場 (輪島市11回、珠洲市2回、能登町5回、穴水町10回) 計450人



# 「奥能登宮農復旧・復興フォーラム」の開催



○今後の奥能登地域の農業の復旧・復興に向けて、農業者や市町、JAなどの関係者が一堂に会し、**次年度に向けた宮農意欲を喚起**

**日 時** 令和7年12月6日（土）15:00～16:30

**会 場** JAのと本店 4F 大ホール（穴水町）

**参加者** 国・県・奥能登4市町・JA・農業者など **450名**

**内 容** **・復旧・復興に向けた県の取組状況の報告**

・基調講演 「中越地震からの農業の復興」

農事組合法人グループファーム武道窪（新潟県）阿部 恒雄 氏

・県内外の農産物販売事業者からの激励

生活協同組合パルシステム埼玉（埼玉県）理事長 西内 良子 氏 など

・農家代表による復興に向けた決意表明

米農家（珠洲市・瀬法司 公和 氏）、園芸農家（輪島市・上田 千恵 氏）

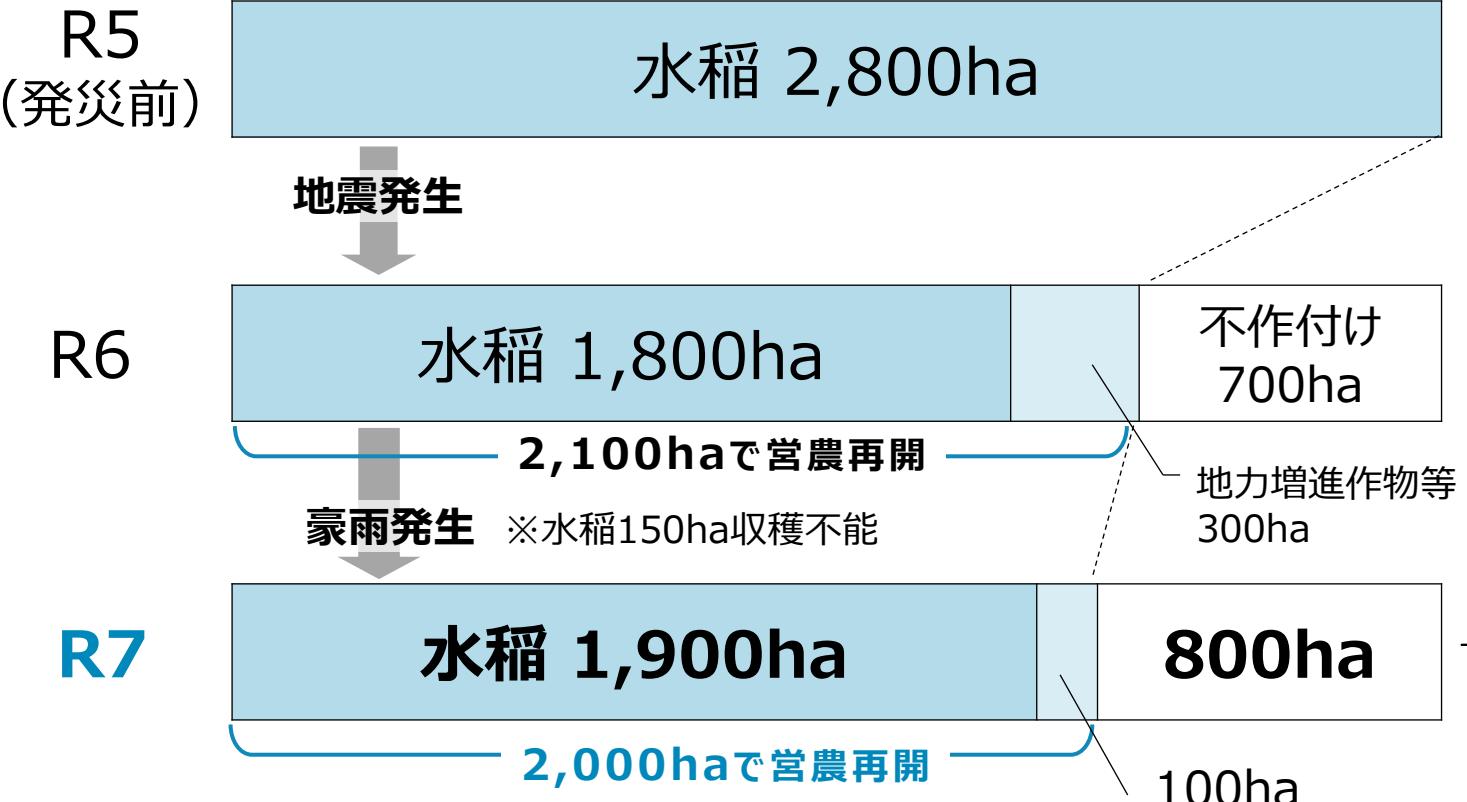


# 奥能登地域の営農再開状況（水稻）



○農地や水路等の復旧や、営農再開に向けた支援等により、**令和7年は、発災前の約7割となる2,000ha（水稻1,900ha）**で営農再開

## 営農再開面積



## <不作付け地800haの要因>

**生産基盤の問題  
500ha (6割)**

→農地や水路の損傷等

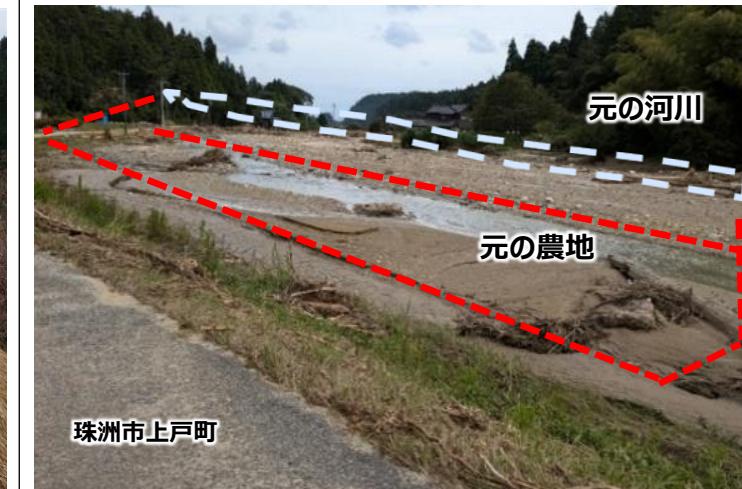
**人的な問題  
300ha (4割)**

※地力増進作物等：麦やソバなど土の栄養分を蓄えるために育てる作物

# 生産基盤要因の不作付け地500haの対応



○農地・水路など生産基盤の破損による不作付け500haは、**被害の規模に応じて被災箇所を3つに区分し、計画的に復旧**  
⇒R8年は**2,200haの営農再開**を目指す（R8年までに追加で200ha復旧）

再開目標	R 8	R 9	R 10以降
面積	(小規模被害) 約200ha	(中規模被害) 約150ha	(大規模被害) 約150ha
状況	○土砂等の堆積 ○小規模崩壊や水路被害 等  	○地震による亀裂 ○崩壊に伴う農地・水路被害 等  	○農地の原形を留めない被害大 ○農地隆起や大規模崩落 等  元の河川 元の農地 珠洲市上戸町
対応	R7年度：復旧工事	R7年度：測量設計 R8年度：復旧工事	R7年度：復旧方針決定

# 人的要因の不作付け地300haの対応

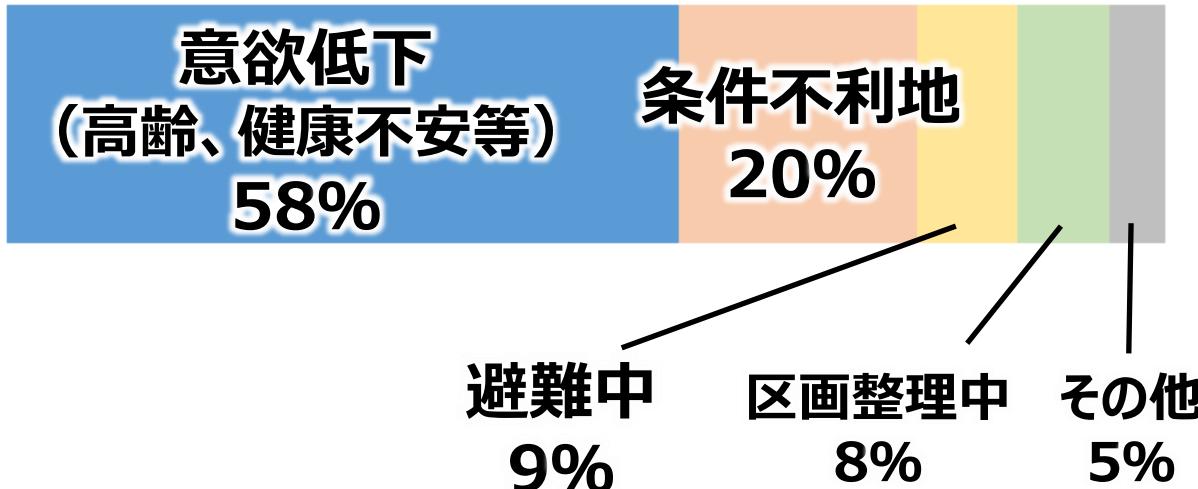


- 不作付けの主要な要因は、高齢等による営農意欲低下が6割、条件不利地が2割
- 自ら営農再開する予定も耕作者のあてもない農地が全体の6割**  
⇒農作業を受託する**担い手農家との仲介**や、**集落における農地利用に向けた話し合い**などを伴走支援  
※「奥能登農作業受託者協議会」の設立 (R7.10月)

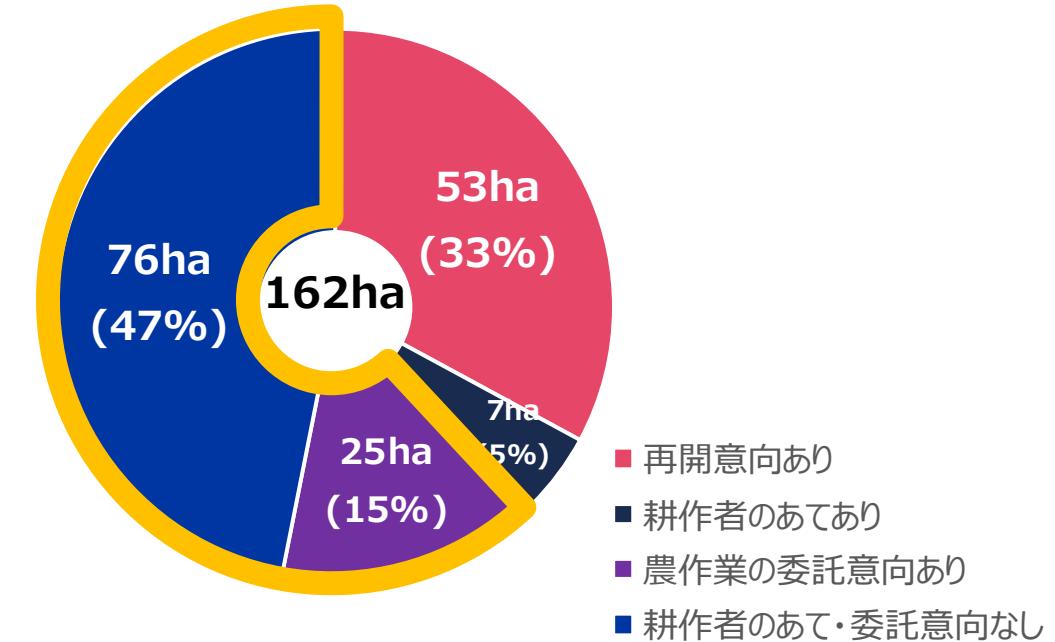
## アンケート結果

※回収率約 7割

### ＜不作付けの要因＞



### ＜作付け意向＞



# 「地域農業の将来を考える」合意形成モデル地域



- 急激な営農環境の変化を踏まえ、担い手確保や共同管理作業の体制整備などの**地域農業の将来像**について **PUSH型で合意形成を促進** ⇒ 「地域計画」の見直しにつなげる
- 関係機関の連携のもと、**課題解決策を検討しつつ、1地域につき2年間**を基本に地域での話し合いをサポート

13地域42集落

【輪島市】 (17集落)

【珠洲市】 (12集落)

【穴水町】 (3集落)

【能登町】 (10集落)



※うち民間コンサルと連携(緑枠)：12集落

## 園芸

- 果樹では、専門技術を有するボランティア派遣等におけるコーディネートなどにより、営農再開を支援
- 一方で、農地・農道の復旧遅れや、地域外への避難等により営農再開できない農業者も存在
- その結果、かぼちゃやブロッコリーなど 野菜は47ha(R6の1.2倍、R5の7割)  
くりや醸造用ぶどうなど 果樹は87ha(R6並み、R5の9割)で営農再開



収穫できなかったホウレンソウの刈り取りボランティア



くりのせん定ボランティア

# 奥能登地域の営農の再開状況（畜産）



## 畜産

- 畜舎・機械の修繕・再取得を希望する畜産農家は全て事業申請済  
→畜舎の修繕・建替えのための専門業者の確保が課題
- R7の出荷状況、能登豚は概ね震災前と同等  
**能登牛は8割程度、生乳は6割程度、鶏卵は4割程度**



再取得事業を活用した牛舎再建事例

### 応急対応で営農を継続



飼槽の倒壊



コンクリートブロックで応急修繕



給水支援



発電機設置支援

### 畜産物の出荷状況

#### 生乳出荷量(t) (各年1月～12月)

	R5	R7	比較 (R7/R5)
県全体	16,685	15,209	91.2%
奥能登	4,001	2,280	57.0%
割合	24.0%	15.0%	

#### 能登牛出荷頭数 (各年1月～12月)

	R5	R7	比較 (R7/R5)
県全体	1,257	1,112	88.5%
奥能登	1,002	831	82.9%
割合	79.7%	74.7%	

# 農業用ため池の復旧状況 (能登全域)



- 被災した農業用ため池422箇所は、被害の拡大防止のため、**応急措置として亀裂保護や低水管理を国、県が中心となり速やかに実施済**

→ 低水管理：ため池の堤体に亀裂、漏水等の異常が発生した場合、決壊等の二次災害を防止するため、貯水位を安全な水位まで低下

- 復旧工事については、比較的被害が小さいため池**96箇所は、県、市町が復旧完了**

- 残りの箇所については、下流域への影響や営農上の優先度の高い箇所から復旧を進め、**令和10年度までの復旧完了を目指す**

＜被災ため池＞  
422箇所(うち廃止 39箇所)  
※全て応急措置済

＜11/14時点＞  
復旧完了：96箇所

＜令和10年度末＞  
復旧完了

## 応急措置

＜小伊勢（輪島市）の農業用ため池＞



ブルーシートの設置  
による亀裂保護



通常時の満水位

低水管理の状態

## 復旧完了

＜平床（七尾市）の農業用ため池＞



【地震】R6.1

堤頂部の亀裂



復旧工事完了

R7. 3

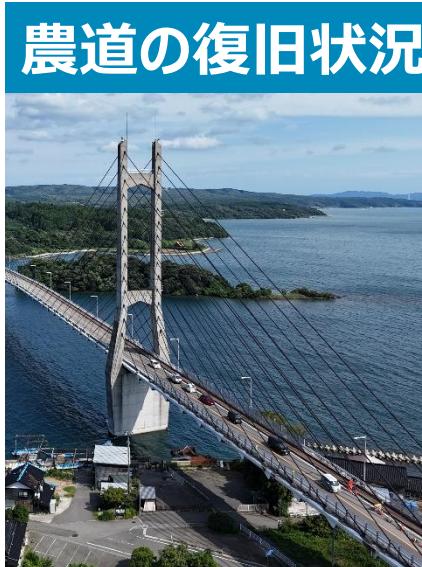
# 基幹的な農道の復旧状況 (能登全域)

- 能登地域の基幹的な農道16路線のうち、**9路線（15箇所）** で甚大な被害を受けたが、順次、**通行止めの解除が進み、県が七尾市から受託した「ツインブリッジのと」などの応急復旧も完了し、現在の通行止め箇所は、トンネル崩壊等による大規模被害が発生した**4路線****

→ 基幹的な農道の定義：県が造成し市町が管理する、数集落ないし数市町に広がる営農団地を連結する基幹的な農道

- 令和10年度末には、復旧に時間のかかる**1路線を除き通行止め解除**の見込み

＜発災直後＞ **9路線（15箇所）** ➡ <11/14時点> **4路線（8箇所）** ➡ <令和10年度末> **1路線（3箇所）**



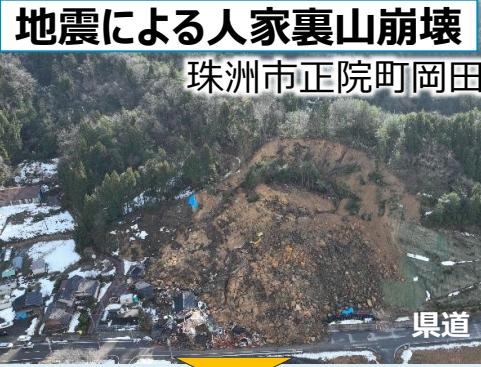
ツインブリッジのと  
令和7年6月16日  
片側交互通行による供用開始



## 復旧状況

- 林地（山腹崩壊・治山施設）は人家や避難所、公共施設周辺など優先度の高い箇所から、林道は林業活動に重要な幹線林道から順次、**詳細設計・復旧工事を実施**
- 被災した**製材工場・きのこ生産施設等**のうち、**約8割が生産を再開**
- 林道等の被災が少ない地域で**丸太生産を再開**のほか、他地域での丸太生産で**雇用を維持**

### 林地・林道の復旧状況



### 林業活動の再開状況

#### 木材生産量 (各年1月～12月累計)

	R5	R6	比較 (R5/R6)
能登地区	64,173m <sup>3</sup>	38,766m <sup>3</sup>	60%
県全体	146,356m <sup>3</sup>	121,301m <sup>3</sup>	83%

#### 再開状況

	被害件数 (事業者数)	経営再開*	再開割合
木材加工施設	37	32	86%
特用林産施設	25	19	76%
計	62	51	82%

\*経営再開は一部再開の事業者を含む